

令和7年度

特別支援教育基礎研修の手引

- ・通級指導教室新担当教員基礎研修【言語】
- ・通級指導教室新担当教員基礎研修【LD等】
- ・特別支援学級新担任基礎研修【知的障がい】
- ・特別支援学級新担任基礎研修【肢体不自由、病弱・身体虚弱、弱視、難聴】
- ・特別支援学級新担任基礎研修【自閉症・情緒障がい】
- ・特別支援学校新任教諭基礎研修

（小学校・中学校・義務教育学校・特別支援学校・高等学校）

令和7年2月

山形県教育委員会

目 次

はじめに	共通2
令和7年度山形県教員研修体系	共通3
令和7年度「Plant」の申込みから修了までの流れについて	共通4
令和7年度特別支援教育研修対象者について	共通5
Plant 申込・承認手順	共通6
通級指導教室新担当教員基礎研修【言語】……………	1
通級指導教室新担当教員基礎研修【LD等】……………	3
特別支援学級新担任基礎研修【知的障がい】……………	5
特別支援学級新担任基礎研修【肢体不自由、病弱・身体虚弱、弱視、難聴】…	5
特別支援学級新担任基礎研修【自閉症・情緒障がい】 ……	5
特別支援学校新任教諭基礎研修……………	7

こちらに、掲載している研修の概要等は山形県教育センターWeb ページよりダウンロードできます。



は　じ　め　に

近年、我が国においては、少子化・人口減少、グローバル化の進展、地球規模課題、格差の固定化と再生産など、様々な社会課題が存在する中、Society 5.0 を見据え、これからの社会を展望する上で、教育の果たす役割はますます重要となっています。

令和3年1月26日に取りまとめられた中央教育審議会答申においては、2020年代を通じて実現を目指す学校教育が「令和の日本型学校教育」とされ、その姿が、「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学び」と定義されました。あわせて、教師の理想的な姿として、

- ・環境の変化を前向きに受け止め、教職生涯を通じて学び続けている
- ・子供一人一人の学びを最大限に引き出す教師としての役割を果たしている
- ・子供の主体的な学びを支援する伴走者としての能力も備えている

であることも示されています。

その後も中央教育審議会において議論が進められ、令和4年12月19日に取りまとめられた答申では、「個別最適な学び、協働的な学びの充実を通じて、『主体的・対話的で深い学び』を実現することは、児童生徒の学びのみならず、教師の学びにも求められる命題である」と述べられています。教師の学びの姿も、子供たちの学びの相似形であり、「令和の日本型学校教育」を実現するためには、子供たちの学びの転換とともに、教師自身の学び（研修観）を転換することが求められています。

本県では、教育職員免許法及び教育公務員特例法が令和4年5月に改正されたことを受け、令和5年3月に、教員の資質向上に係る「山形県教員『指標』」を改正しました。本県教員が「令和の日本型学校教育」を担う新たな教員の学びの姿を実現するため、高度専門職としての職責、経験及び適性に応じて身に付ける資質・能力を、改めて明確化したものです。

令和5年4月には、「研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励の手引き」を示すとともに、令和6年4月からは、文部科学省で構築した「研修受講履歴記録システム及び教員研修プラットフォーム」を活用し、主体的に学び続ける教員の育成及び研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励の推進を図っています。

また、現在、令和7年度から概ね10年間を期間とした、第7次山形県教育振興計画の検討が進められています。本県教育の目標を「ウェルビーイングを目指し、多様性あふれる持続可能な社会の実現を担う山形の人づくり」と掲げ、「体験」、「探究」、「尊重」、「協働」の4つの重点的取組みにチャレンジしていくこととしています。

本県で令和5年4月に策定した「第4次山形県特別支援教育推進プラン」では、「教員の専門性の向上」を施策の一つとしてあげております。特別支援教育に携わる教員はもとより、通常の学級においても配慮を要する児童生徒への支援を適切に把握し実践する必要があります。特別支援教育に関するそれぞれの研修の目的や意義を踏まえ、本研修における講話や演習を通して、実践力や専門性が向上することを期待します。

令和7年3月

山形県教育センター所長　安　部　康　典

山形県教員研修体系

山形県教員「指標」におけるキャリアステージ							
<div> <div> <div>領域</div> <div>生徒指導力</div> <div>学習指導力</div> <div>特別支援教育力</div> <div>ICT活用・情報モラル</div> <div>総合的な人間力</div> <div>教育公務員としての自覚</div> <div>チームマネジメント能力</div> <div>危機管理対応能力</div> </div> <div> <div>始発期</div> <div>初任～3年目</div> <div>教員としての使命感や教育観を育てるとともに、基礎的・基本的な能力及び実践的指導力を身につける。</div> </div> <div> <div>成長期</div> <div>4～10年目</div> <div>教員としての専門的な知識・技能の習熟を図り、実践的指導力を高める。</div> </div> <div> <div>充実期</div> <div>11～20年目</div> <div>研修課題の整理・解決を図り、積極的な教育実践を通して教員としての専門的な力量を伸ばすとともに若手教員を指導する力を身につける。</div> </div> <div> <div>組織運営期</div> <div>21年目～退職</div> <div>広い視野に立ち、学校運営の推進者としての自覚を持つとともに、管理・運営・指導に関する力量を高める。豊かな教職経験を踏まえ、実践的な指導力や課題解決力を一層高め、他の教員の力量形成を支援・指導する。</div> </div> </div>							
基本研修	○	○	○	○	○	○	○
	<div> <div>初任者研修・新採教員研修</div> <div>教職2年次フォローアップ研修</div> <div>教職3年次フォローアップ研修</div> <div>教職5年経験者研修</div> <div>中堅教諭等資質向上研修</div> <div>ステージアップ研修</div> <div>教職中長期経験者研修</div> <div>新採校長研修</div> <div>新採教頭研修</div> </div>						
	<div> <div>サービス規律の理解と総合的な人間力の向上を基盤とした基本研修</div> <div>特別支援教育研修</div> <div>特支学級新担任</div> <div>通級指導教室新担当</div> <div>特支学校新任教諭</div> </div>						
専門研修	○	○	○	○			
	○	○	○	○	○	○	○
					○	○	○
校内研修	○	○	○	○	○	○	○
研長期	○	○	○	○	○	○	○
<div> <div>授業研究、職員研修など</div> <div>中央研修</div> <div>教職大学院研修</div> <div>長期研修（山形大学、県教育センター、国特総研等における研修）</div> </div>							

注1 ○印は、重点とする領域である。

注2 養護教諭・栄養教諭については、領域内の「生徒指導力」、「学習指導力」を、各職種の専門的な指導力に読み替えるものとする。

注3 職種によっては開講しない講座もある。

注4 校内研修に関し、OJTのサポートのため指導主事の派遣が行われている。

令和7年度「Plant」の申込みから修了までの流れについて

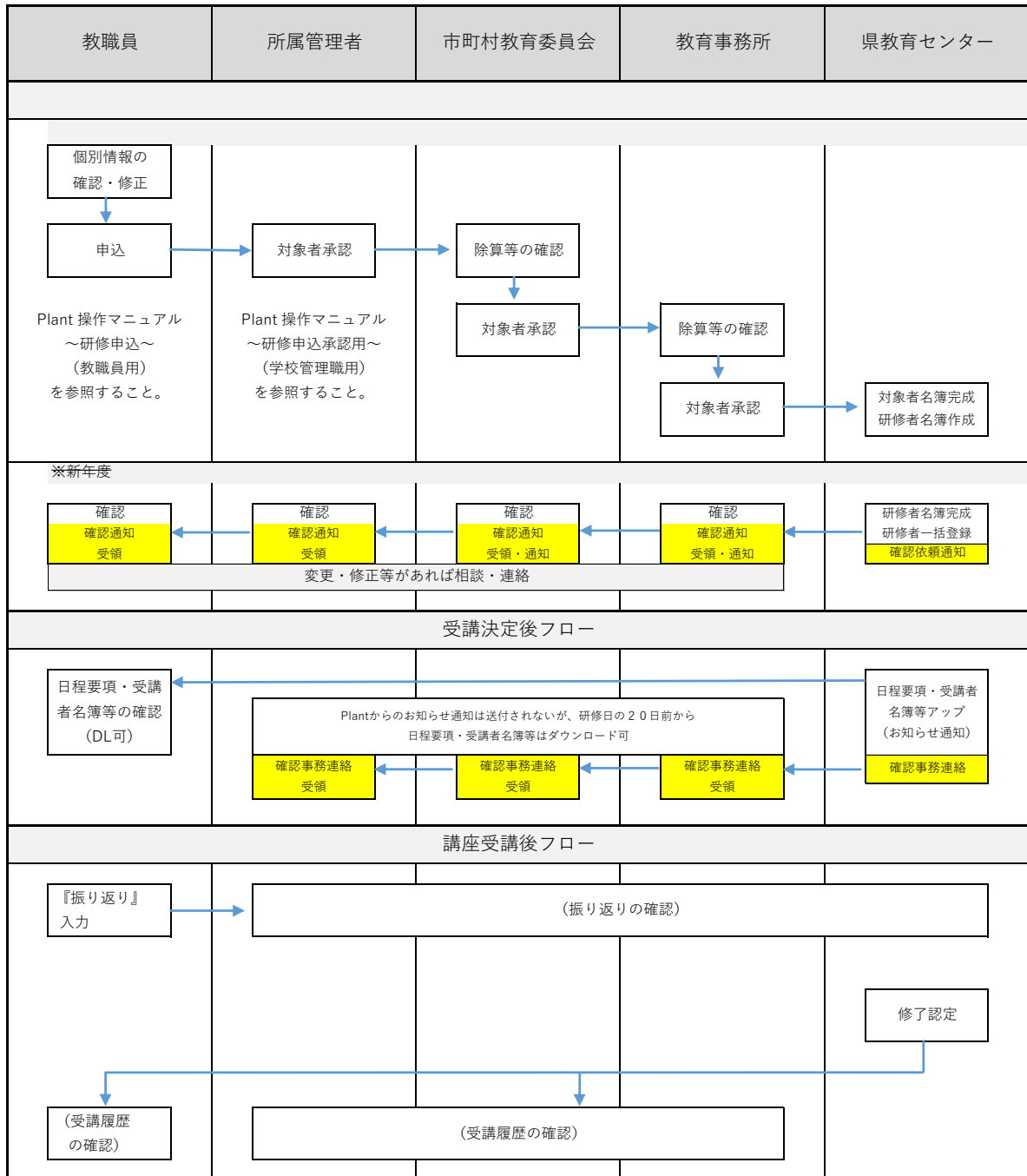
1 基本的な考え方（基本研修）

通級指導教室新担当教員基礎研修、特別支援学級新担任基礎研修、
特別支援学校新任教諭基礎研修

○各所属の「承認」について

学校管理職等は研修の奨励を含む適切な指導助言を行うことにより、教員の効果的かつ主体的な資質向上・能力開発に資することが必要とされている。また、服務監督権者は教師の資質の向上に向けた支援体制を整えること、任命権者は、効果的・効率的な研修実施体制を整えることが重要とされている。そのため、各所属において「承認」のプロセスを組み込み、所属管理者（学校）・市町村教育委員会・教育事務所のいずれにおいても、教員の参加状況や研修の実施状況などを確認・把握できるようにする。

例 教育センターにおける基本研修の申込み・実施報告・修了までの流れ



※ 県立学校は、上記、市町村教育委員会及び教育事務所欄を除く。

※ 山形市立学校は、上記、教育事務所を除く。

※ 色付き部分は、Plantによらない部分の動き。

◎ 特別支援教育研修 対象者について(以下に該当する場合、**本人が Plant で申し込む**)

通級指導教室新担当教員基礎研修【言語】

(小学校、中学校、義務教育学校)

- 1 令和7年度の1回目、2回目、3回目の研修日全日に通級【言語】を担当(勤務)している者のうち、初めて言語通級指導教室の担当する教員(講師、助教諭も含む)。

	1 回目	2 回目	3 回目
【言語】	5月23日	9月12日	12月5日

- 2 上記に関し、他県等で、本県の通級指導教室担当研修に相当する研修を受講済みであるなどの場合は、免除となる。

通級指導教室新担当教員基礎研修【LD等】

(小学校、中学校、義務教育学校、高等学校の一部)

- 1 令和7年度の1回目と2回目の研修日両日に通級【LD等】を担当(勤務)している者のうち、初めて LD 等通級指導教室を担当する教員(講師、助教諭も含む)。

	1 回目	2 回目
【LD等】	7月15日	11月26日

- 2 上記に関し、他県等で、本県の通級指導教室担当研修に相当する研修を受講済みであるなどの場合は、免除となる。

特別支援学級新担任基礎研修【知的障がい】【肢体不自由、病弱・身体虚弱、弱視、難聴】【自閉症・情緒障がい】

(小学校、中学校、義務教育学校)

- 1 令和7年度の1回目と2回目の研修日両日に特別支援学級を担当(勤務)している者のうち、以下の項目のいずれかに該当する者。※参照

(1) 初めて特別支援学級を担当する教員(講師、助教諭も含む)。

(2) 特別支援学校から小学校・中学校・義務教育学校へ転勤し、初めて特別支援学級担任になった教員。

	1 回目	2 回目
【知的障がい】	6月18日	9月26日
【肢体不自由、病弱・身体虚弱、弱視、難聴】	6月 4日	8月28日
【自閉症・情緒障がい】	6月 4日	10月15日

- 2 上記に関し、他県等で、本県の特別支援学級新担任基礎研修に相当する研修を受講済みであるなどの場合は、免除となる。

特別支援学校新任教諭基礎研修

(県立特別支援学校)

- 1 令和7年4月1日現在今年度初めて特別支援学校に勤務する教諭。

- 2 他県での経験があったり、R7 年度受講を延期したりする場合は、県教育センターに問い合わせること。

※参照＜特別支援学級新担任基礎研修の対象者例＞

○受講対象者の例

→本人の Plant 申込【4月24日(木)まで】

- ・これまで特別支援教育関連(特別支援学校で勤務、通級指導教室担当)の担任歴があるが、「初めて特別支援学級担任」になった。
- ・かつて、1回だけ〔1回目6月、2回目(9又は10月)の一方だけ〕研修を受けたことがある。

○受講対象外の例

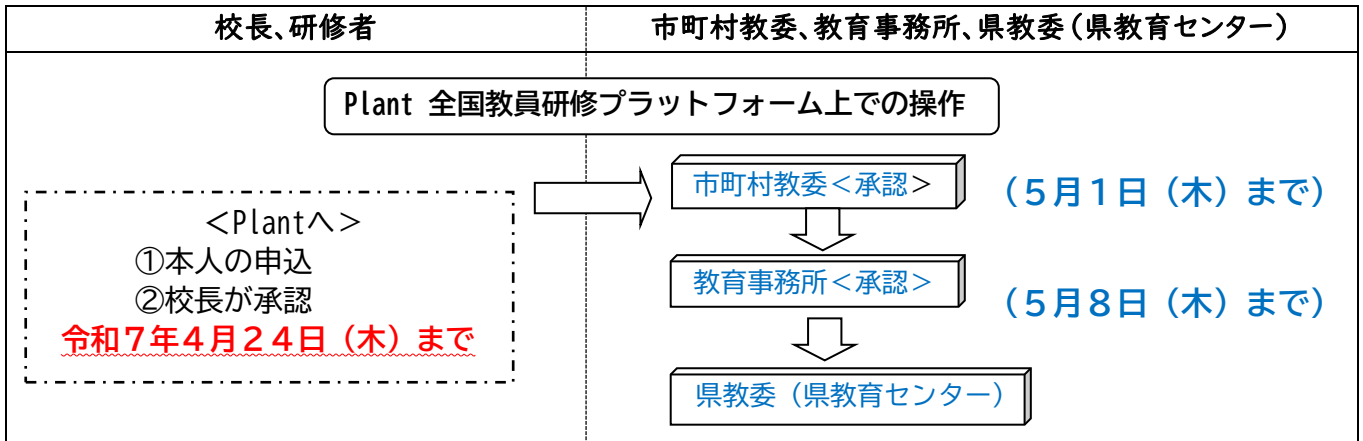
→希望者は専門(希望)研修の申込

- ・かつて今年度担当ではない障がい種の特別支援学級を担当し、特別支援学級新担任基礎研修を受講したことがある。
- ・かなり以前、特別支援学級担任をし、研修を受講済である。
- ・他県で同等の特別支援学級研修を受講済。

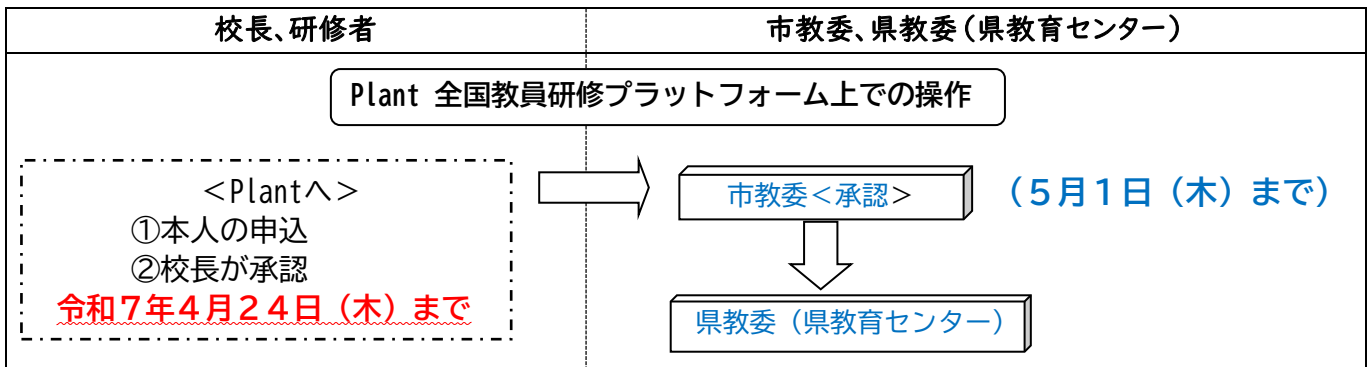
特別支援教育 研修の申込・承認手順

R7.4.1～申込開始

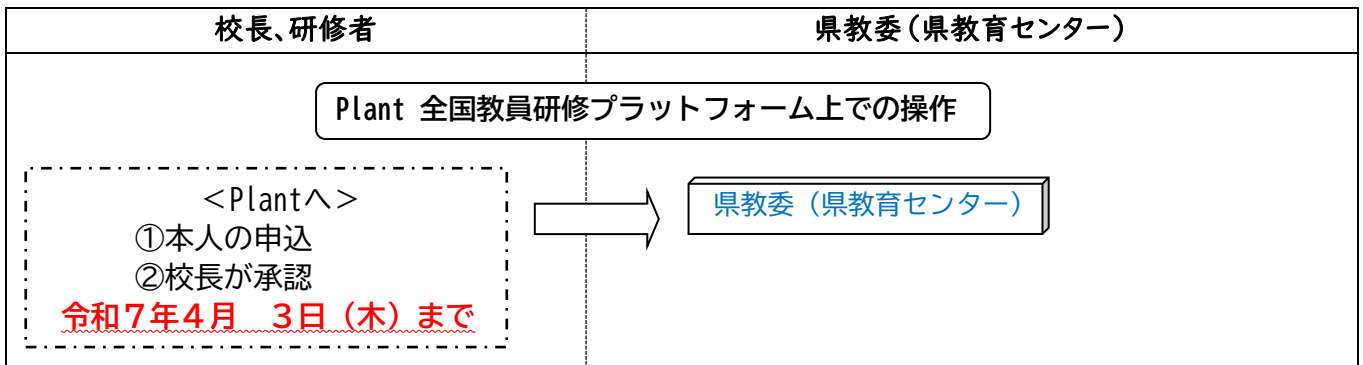
<市町村立小学校・中学校・義務教育学校>※山形市を除く



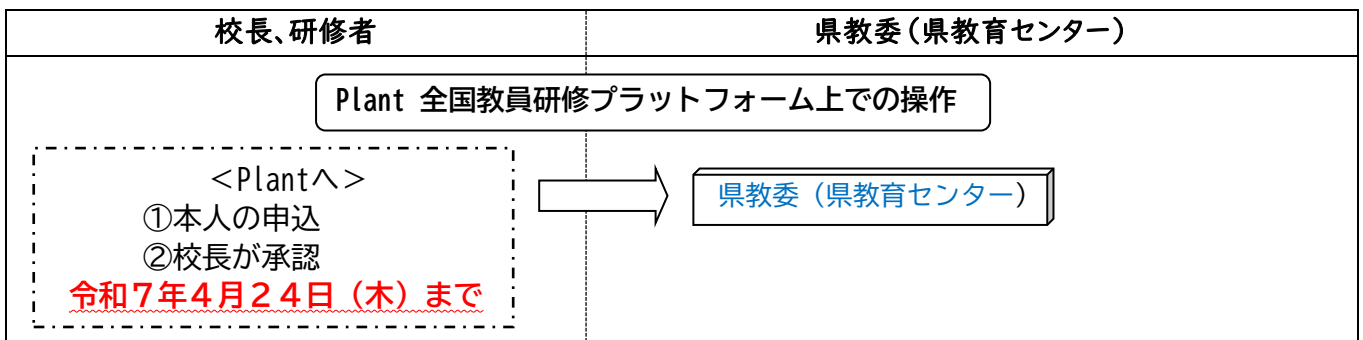
<山形市教育委員会>



<県立特別支援学校>



<県立高等学校>※通級LD等設置校のみ



令和7年度山形県特別支援学校新任教諭基礎研修の概要

1 目的

県立特別支援学校の新任教諭を対象とし、特別支援学校における教育に係る基礎的事項の研修を通して、一人一人のニーズに応じた支援の在り方及び保護者や関係機関との連携の在り方について理解を図る。

2 対象者

令和7年4月1日現在今年度初めて特別支援学校に勤務する教諭。

3 研修の期日・会場・日程等

(1) 期 日：令和7年4月18日（金）

(2) 日程と内容：県教育センターにおける研修

日 時		研 修 内 容	方 法	講 師
4 月 18 日 (金) (集合型)	9:30～ 9:50	受 付		
	9:50～10:00	開講式・オリエンテーション		
	10:00～10:15	イントロダクション		
	10:15～12:00	特別支援教育の基礎	講義 演習	県教育センター 特別支援教育課長
	13:00～14:50	特別支援学校における授業実践	講義 演習	県教育センター 指導主事
	15:00～15:30	受講者の課題と 今後の取組みについて	講義 演習	県教育センター 特別支援教育課長
	15:30～15:50	リフレクション（振り返り）		
	15:50～16:00	閉講式・諸連絡		

(3) 受講に係る旅費

- ・ 年度当初、教育事務所に配当替の10款1項5目より支給する。

(県教育センター別枠予算差引の支出)

(4) 詳細について

- ・ 携行品等、詳細については4月に通知する「日程要項」で確認すること。